Meteorological Society of Japan

も叶わぬ夢である．

近年，手相に興味を持って，自分の掌を眺めて一喜一憂したり，職場の方々にいい加減なご託宣をもっともらしく告げたりして楽しんでいた．たまたま先生が長官室にお出でになった折，先生のような人物はどのような手相をお持ちか，不躾ながら拝見させていただいた．先生の豊かな手の平には大吉相とされている紋が見事に刻まれていた．他の人の手にも見たことがあり，私の手にも，そのつもりで見れば似たような紋が在るようにも見えるが，先生のような典型的なものは初めて拝見した．やはり古来の手相術には信ずべき所があるのかも知れない．

なんとなく，まだまだ先生とお会いする機会はあるものと思い込んでいたところに，突然のご逝去で，あれもお聞きしておけばよかった．これもお聞きしておけばよかったと後悔すること頻りである．

故 和達先生を偲ぶ

寺 内 榮 一

私が気象衛星センター所長の職に在った昭和58年の夏でしたか，地学連絡会の会長として会員の方々を案内して埼玉県鳩山町の気象衛星通信所の見学のあと，清瀬のセンターに廻られたことがありました．良い機会と思い特に御講演をお願いした処，例の如く気さくにO. K. され，「気象業務の今昔」という題のお話を戴きました．“戦後の混乱の中で気象庁が逸早く最新技術を導入し，業務を近代化した過程のこと，そして衛星の運用利用も電子計算機の導入，レーダーの展開等の努力の延長線上にある”という内容で，その理路整然とした判り易い話し振りとユーモアを交えた巧みな話術と相俟って職員一同に深い感銘を与えました．当時，長官退官後既に20年を経過し，先生の在官時の御業績について詳しくは知らぬ職員が多くなっておりました．

私は，気象業務の近代化の裏には，先生の勝れた先見性，卓技な指導性，そして正しい判断と決断力が在ったと思っております．

数値予報用の大型電子計算機の導入に際して，IBM704 型と UNIVAC SCIENTIFIC 1102 (?) 型のどちらを選択するかという問題が起きた時，先生は長官としてIBM704 型の採用を決断されましたが，ハードウェアの性能，メンテナンスの多少の優劣論よりは，「FORTRAN」という高級プログラム言語の存在を決め手とされたと聞いております．このケースにおいても，先生の先見性と正しい判断力が発揮されました．当時（昭和31年頃）は，「ソフトウェア」という言葉が今のように一般化しておらず，「記号（シンボリック）言語」を活用して少ないステップで短かいプログラムを造る職人的プログラマーの名人芸が重用されていた時代でありました．この後の日本の電子計算機の開発に，この選択の果した役割は大きかったのではないでしょうか．

前述の御講演のあと，内藤町の御自宅まで車でお送りしました．“衛星のこれからの利用の方向，これまででも気象衛星資料の利用技術が，衛星課長当時の予想を超えてきていることなど”について談論風発しておりました処，車が青梅街道に入って間もなくだったと思いますが，突然，先生が運転手に，「ラジオをつけて下さい」と言われました．途端に，プロ野球の「巨人―ヤクルト」戦の実況が入ってきました．それからは話題は，プロ野球の話，先生御自身が洲崎球場時代以来のプロ野球愛好者であること，特に巨人軍ファンであり，その関係で後楽園球場のネット裏優待席券（シーズン通しの）を球団から寄贈されていることなどが中心になりましたが，私はそこに先生の飾らないお人柄，多趣味の御一端に触れた思いでした．御自宅に到着するまで，巨人軍は，大きく負けておりました．お通夜の日，下鶴先生にお会いした折，お亡くなりになる前の先生の御様子をお聞きしたところ，先生が1月4日の夜の9時から11時まで，日本テレビの“長嶋茂雄の超偉人伝説”を御覧になり，「今日の長嶋は良かった」と満足されてから御自室へ戻られて間もなく仆れられたということでしたが，熱烈な巨人軍ファンであられた先生には，失礼を省り見ず申し上げれば，ある意味で相応しかったと思うのですが如何でしょうか．

顧りみると，気象庁に入ってまだ日の浅い予報官時代に，図々しくも私共の結婚の仲人役をお引受け頂い

NII-Electronic Library Service

Meteorological Society of Japan

た時が，先生にお近付きになるきっかけであったように思います．昭和31年の1月末でしたが，当時の大手町の木造モルタルの旧庁舎2階の中央気台台長室にお伺いして，恐る恐るお願いした処，いとも気安く上気嫌に「いいよ」という御返事でした．御返事のあと「ただし，ジュネーブの国際会議に出張して帰国が式日の前日になっているので，遅刻するかも知れないが，その時は……」と申されました．お忙しい御日程の中でお引受け下された御好意に感激したことでした．幸いに先生は予定通り前日には羽田に到着され無事挙式を済ますことができました．改めて地位の上下に無関係に人に接せられた先生の御人格を感じます．

このようなこともあって，先生の御自宅を私的にお訪ねする機会は，専門分野を全く異にしており，上司下僚の近い関係に無かったにも拘わらず，多少，多かったかも知れません．ブラジルの宇宙研究所の仕事から帰国して間もなく御報告を兼ねてお伺いした時がありました．ブラジル気象界の実情や彼地における生活の実際などについてお話しましたが，非常な興味を示され聞いて頂きました．その際，「彼地で，アメリカ気象局長官であった Cressman 先生にお会いした時のこと，『Dr. Wadati はどうしているか？健在か？彼のマジックは素晴しい……』と言っていましたよ」と申上げると大変に喜んでおられました．南極に在るブラジルの基地のことに触れた時には，御自身15次南極観測隊に同行して昭和基地を訪ねた当時の御旅行を憶出され，「ブラジルには結局行けなかったね」と言われたのが印象的でした．

私なりの先生とのご交際を通して感銘を受けた他の点として，「公正さ」と「謙虚さ」を挙げることができます．先生は誰方とでも私情を交えず接せられたのでは無いでしょうか．御自身による“深発地震の発見”の御研究が，最近の“プレートテクトニクス”論の中でプレート境界面の存在論との関連で再評価されていることについても，先生から誇らかな御発言を聞くことは遂にありませんでした．

これらの数々の秀れた御資質に，明朗闊達，軽妙洒脱の御性格が，先生の交友範囲の広さ，学界および学際的分野における幅広く息の長い御活躍の根源にあったと私は思っております．終りに，先生との生前の御交誼を感謝しつつ御冥福を祈るばかりです．

私が和達先生に最後にお会いした時

中 野 猿 人

私が和達先生に最後にお会いしたのは去る11月28日に毎年行われてきた所謂「寅彦会」の席上でありました．

「寅彦会」というのはご存知の方も多かろうと思いますが，寺田寅彦先生が亡くなられた（昭和10年の大晦日）後に，有志の方々の発起によって出来た「偲ぶ会」のようなもので，もう彼此50数年程になりますが，寺田先生のご誕生日に前記のように毎年行われてきたものです．そして私は毎回，その会の末席を汚して居りましたが4年程前に脳梗塞で倒れて一時は生死の間をさまよいつづけたのですが，命だけは助かり，以後数年間は車椅子に乗ったまま近くの施設に通って「リハビリ」に努めてまいりました．

昨年の秋に「寅彦会」の幹事をされている太田文平氏から，「寅彦会」の御通知があり，特に今回は，或いは最後の機会になるやも知れないから万障繰り合わせて是非出席をお願いしますとの案内を受けました．お陰様でこのところ体調も安定していたので出席する事にしました．会場は神田の学士会館でした．集まった会員は6名で，寺田先生の次女に当られる関弥生様，和達清夫先生，樋口敬二氏，それにこの会の幹事をなさっている太田文平氏と三宅修三氏，それに私です．

和達先生にお会いしたのは実はもう4年以上の前のことで，先生が御無事だとはかねてから聞いていましたけれども，そのお元気なご様子はこの時はじめて知りました．私が「先生，お変りはありませんか．」と尋ねますと「有難う．まあ，元気です．」と答えられました．又和達先生は「わたしは煙草が好きで小学生の頃から親にかくれて吸っていたけれど体に良くないし，つい昨年位からやめることにした．」といわれました．90歳をこえられてのこの御言葉に和達先生らしいユーモアとおおらかさがにじみでて何ともたのしい御話に

NII-Electronic Library Service